



日本基準		表示組替	認識及び 測定の違い	IFRS	注記
<b>資産</b>				<b>資産</b>	
現金預け金	1,544,838	—	—	1,544,838	現金預け金
	—	422,027	(1,090)	420,937	金融派生商品資産
	—	377,938	(3,342)	374,596	純損益を通じて公正価値で 測定する金融資産
有価証券	358,748	(309,033)	10,817	60,532	有価証券
貸出金	13,133,980	(395,893)	21,422	12,759,508	貸出金及びその他の債権 持分法で会計処理されて いる投資
	—	120,494	11,361	131,856	有形固定資産
有形固定資産	28,146	—	—	28,146	
無形固定資産	5,227	(5,227)	—	—	
その他資産	434,040	(367,775)	2,875	69,141	その他の資産
支払承諾見返	2,118,383	—	(2,118,383)	—	
貸倒引当金	(285,855)	285,855	—	—	
<b>資産合計</b>	<b>17,337,510</b>	<b>128,387</b>	<b>(2,076,339)</b>	<b>15,389,558</b>	<b>資産合計</b>
<b>負債</b>				<b>負債</b>	
	—	178,252	3	178,255	金融派生商品負債
借入金	6,786,499	—	—	6,786,499	借入金
社債	4,886,646	—	112,377	4,999,024	社債
	—	—	98,965	98,965	金融保証契約負債
退職給付に係る負債	6,715	(6,715)	—	—	
役員退職慰労引当金	44	(44)	—	—	
その他負債	424,572	(42,507)	(22,421)	359,643	その他の負債
賞与引当金	586	(586)	—	—	
役員賞与引当金	10	(10)	—	—	
支払承諾	2,118,383	—	(2,118,383)	—	
<b>負債合計</b>	<b>14,223,458</b>	<b>128,387</b>	<b>(1,929,456)</b>	<b>12,422,389</b>	<b>負債合計</b>
<b>純資産</b>				<b>資本</b>	
資本金	1,883,800	—	—	1,883,800	資本金
利益剰余金	995,688	—	77,972	1,073,661	利益剰余金
	—	234,291	(224,855)	9,436	その他の資本の構成要素
その他有価証券評価差額金	(3,486)	3,486	—	—	
繰延ヘッジ損益	231,303	(231,303)	—	—	
為替換算調整勘定	6,475	(6,475)	—	—	
非支配株主持分	271	—	—	271	非支配持分
<b>純資産合計</b>	<b>3,114,051</b>	<b>—</b>	<b>(146,882)</b>	<b>2,967,168</b>	<b>資本合計</b>
<b>負債及び純資産の合計</b>	<b>17,337,510</b>	<b>128,387</b>	<b>(2,076,339)</b>	<b>15,389,558</b>	<b>負債及び資本の合計</b>

## (2) 当期利益の調整表

第7期(2019年3月期)

(単位:百万円)

日本基準		表示組替	認識及び 測定の違い	IFRS		注記
資金運用収益	450,798	(7,073)	9,475	453,200	利息収益	B,D
資金調達費用	365,878	(95,797)	1,285	271,366	利息費用	G
				181,834	純利息収益	
役員取引等収益	23,030	(163)	(5,974)	16,892	役員取引等収益	B
役員取引等費用	2,993	—	—	2,993	役員取引等費用	
	—	95,599	(76,072)	19,527	純金融派生商品費用	A
組合出資に係る持分利益 <sup>※1</sup>	467	(467)	—	—		B
	—	3,380	(1,586)	1,794	純損益を通じて公正価値で 測定する金融資産に係る 純損失	B
	—	20	54	74	償却原価で測定する金融 資産の認識の中止に伴う 純利得	
その他業務収益	272	(272)	—	—		
その他の経常収益 <sup>※1</sup>	1,337	(1,337)	—	—		B
特別利益	6	(6)	—	—		
	—	(518)	668	150	その他の収益	
				7,197	利息以外の費用	
				174,636	業務収益	
償却債権取立益 <sup>※1</sup>	3,208	(3,208)	—	—		D
貸倒引当金繰入額 <sup>※2</sup>	19,561	(19,561)	—	—		
	—	16,353	(684)	15,669	金融資産の減損損失	D
				158,967	純業務収益	
その他業務費用	2,638	(2,638)	—	—		
営業経費	21,200	—	(261)	20,938	営業費用	I
その他の経常費用 <sup>※2</sup>	11,788	(11,788)	—	—		B
	—	2,638	(1,197)	1,440	その他の費用	
				22,379	業務費用	
持分法による投資損失 <sup>※2</sup>	2,026	(1,138)	—	887	持分法による投資損失	E
				135,700	税引前利益	
法人税等	4	—	—	4	法人所得税費用	
<b>当期純利益</b>	<b>53,030</b>	<b>—</b>	<b>82,665</b>	<b>135,695</b>	<b>当期利益</b>	

※1 これらの科目は、日本基準の「その他経常収益」に含まれております。

※2 これらの科目は、日本基準の「その他経常費用」に含まれております。

第8期(2020年3月期)

(単位:百万円)

日本基準		表示組替	認識及び 測定の差異	IFRS		注記
資金運用収益	417,832	(6,543)	10,997	422,286	利息収益	B,D
資金調達費用	329,800	(84,686)	1,334	246,447	利息費用	G
				175,838	純利息収益	
役務取引等収益	25,595	(471)	(8,225)	16,898	役務取引等収益	B
役務取引等費用	3,253	—	—	3,253	役務取引等費用	
	—	(85,500)	149,370	63,870	純金融派生商品収益	A
組合出資に係る持分利益 <sup>※1</sup>	4,411	(4,411)	—	—		B
	—	8,243	8,690	16,934	純損益を通じて公正価値で 測定する金融資産に係る 純利得	B
その他の経常収益 <sup>※1</sup>	1,493	(1,493)	—	—		B
特別利益	16	(16)	—	—		
	—	3,601	(3,322)	279	その他の収益	
				94,728	利息以外の収益	
				270,566	業務収益	
貸倒引当金戻入額 <sup>※1</sup>	7,215	(7,215)	—	—		D
償却債権取立益 <sup>※1</sup>	29,308	(29,308)	—	—		
	—	(33,625)	125,997	92,372	金融資産の減損損失	D
				178,194	純業務収益	
その他業務費用	8,924	(8,924)	—	—		
営業経費	21,365	—	(80)	21,284	営業費用	I
その他の経常費用 <sup>※2</sup>	2,899	(2,899)	—	—		B
	—	8,112	(5,278)	2,833	その他の費用	
				24,117	業務費用	
持分法による投資損失 <sup>※2</sup>	2,828	(1,091)	—	1,736	持分法による投資損失	E
				152,340	税引前利益	
法人税等	25	—	—	25	法人所得税費用	
当期純利益	116,775	—	35,538	152,314	当期利益	

※1 これらの科目は、日本基準の「その他経常収益」に含まれております。

※2 これらの科目は、日本基準の「その他経常費用」に含まれております。

## 資産、負債及び資本の調整表並びに当期利益の調整表に関する注記

### A. 金融派生商品資産及び金融派生商品負債

#### (1) ヘッジ会計

当行グループは、為替リスク及び金利リスクをヘッジする目的で金融派生商品を利用しております。当行グループは、日本基準連結財務諸表より会計上のミスマッチを消去するため、公正価値ベースで99.9%以上のデリバティブ取引に対して、マクロヘッジを含むヘッジ会計を適用しております。

2012年のIFRS初度適用時から2018年3月期末まで、当行グループはIAS第39号のヘッジ会計を適用せず、IFRS連結財務諸表にはデリバティブ取引を用いたリスク管理活動の効果が反映されておりました。当行グループは、IFRS第9号適用後の2018年4月1日以降に発行された社債の金利リスクの公正価値ヘッジを主な対象として、ヘッジ会計を適用しております。

IFRSのヘッジ会計の詳細は連結財務諸表の注記3.G及び注記8に記載されております。加えて、日本基準では繰延ヘッジ損益となる「金融派生商品評価損益」及びIFRS公正価値ヘッジ適用によるヘッジ対象の帳簿価額の調整損益は、連結財務諸表の注記26に記載されております。

#### (2) 金融派生商品資産及び金融派生商品負債の相殺表示

日本基準では、金融派生商品資産及び金融派生商品負債について、相殺要件を満たす取引の金額を取引相手ごとに相殺し、「その他資産」又は「その他負債」に含めて表示しております。IFRSでは、金融派生商品資産及び金融派生商品負債のうちIFRSの相殺の要件を満たさないものについて、「金融派生商品資産」又は「金融派生商品負債」として総額で表示しております。

#### (3) 信用リスク調整

IFRSでは、金融派生商品資産及び金融派生商品負債の公正価値の測定にあたり、観察可能な市場データから算定したカウンターパーティーの信用リスク又は当行グループの信用リスクを考慮しております。

### B. 純損益を通じて公正価値で測定する金融資産

IFRSでは、金融資産の契約上のキャッシュ・フローが元本及び元本残高に対する利息のみでない場合、当該金融資産を純損益を通じて公正価値で測定しております。契約上のキャッシュ・フローが元本及び元本残高に対する利息のみであり、契約上のキャッシュ・フローの回収のみを目的として保有する場合は、当該金融資産を償却原価で測定しております。一方、日本基準では、金融資産の法的形態及び保有目的に従って測定方法が定められております。

当行グループが保有し、持分法で会計処理されている投資を除く株式、組合出資及び一部の貸出金については、その契約上のキャッシュ・フローが元本及び元本残高に対する利息のみでないため、IFRSでは公正価値で測定し、「純損益を通じて公正価値で測定する金融資産」として表示しております。一方、日本基準では法的形態及び保有目的に従って取得原価又は公正価値で測定し、「有価証券」又は「貸出金」として表示しております。株式については発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、評価額の減額を行い、評価差額は当期の減損損失として処理しております。

また、IFRSでは、当該資産より生じるすべての損益を「純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に係る純収益(損失)」に含めて表示しております。一方、日本基準では、受取利息及び受取配当金を「資金運用収益」、受取手数料を「役務取引等収益」、当該資産の公正価値の変動及び売却により生じる実現損益を、収益の場合は「その他の経常収益」として、費用の場合は「その他の経常費用」として表示しております。

### C. 有価証券

関連会社及び共同支配企業に対する投資は、日本基準では「有価証券」、IFRSでは「持分法で会計処理されている投資」として表示しております。なお、測定方法の違いについては「E. 持分法で会計処理されている投資」をご参照下さい。

関連会社及び共同支配企業に対する投資以外の株式及び組合出資は、日本基準では「有価証券」、IFRSでは「純損益を通じて公正価値で測定する金融資産」として表示しております。なお、測定方法の違いについては「B. 純損益を通じて公正価値で測定する金融資産」をご参照ください。

債券は、日本基準及びIFRSにおいて「有価証券」として表示しております。測定方法については、日本基準では時価により評価し、評価差額を「その他有価証券評価差額金」として認識しております。一方、IFRSでは償却原価により測定しております。

IFRSでは、償却原価により測定する有価証券に対して予想信用損失モデルに基づく減損損失を認識しております。減損損失は金融資産の当初認識後の信用リスクの変化の程度に応じて、報告日から12か月又は報告日後の全期間に発生すると見込まれる予想信用損失を見積り計上しております。測定された減損損失は有価証券から貸倒引当金を通じて控除しております。

#### D. 貸出金及びその他の債権

IFRSの「貸出金及びその他の債権」は、日本基準の「その他資産」に含む未収貸出金利息及び「H. 金融保証契約負債」に記載する金融保証契約資産を含みますが、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産は含みません。

貸出金及びその他の債権は、当初認識時に、直接帰属する取引費用を加えた公正価値で測定し、当初認識後は実効金利法を用いた償却原価で測定しております。貸出金の組成手数料は、関連する貸出金の組成と不可分であるとみなされる場合、実効金利法の一部として償却されます。

日本基準では、個別貸倒引当金に加えて一般貸倒引当金を計上しております。一方、IFRSでは予想信用損失モデルに基づく減損損失を見積り計上し、測定された減損損失は貸出金及びその他の債権から貸倒引当金を通じて控除しております。予想信用損失の計上方法については、「C. 有価証券」をご参照ください。

#### E. 持分法で会計処理されている投資

関連会社及び共同支配企業に対する投資は、主に組合出資です。日本基準では、一部の組合出資に対して持分法を適用しております。一方、IFRSでは、子会社である投資会社が保有する投資を除き、関連会社及び共同支配企業に対する投資と判断されたすべての組合出資に対して持分法を適用しております。そのため、日本基準で持分法を適用していない組合損益のうち、IFRSにおいて持分法を適用した組合出資に係る損益については、「持分法による投資利益」として表示しております。

持分法適用の結果生じる在外営業活動体の為替換算差額は、IFRSでは「その他の資本の構成要素」として認識し、日本基準では「為替換算調整勘定」として表示しております。

#### F. リース

当行グループは2019年4月1日よりIFRS第16号「リース」を適用しております。当行グループがリースの借手となる取引は、主に事務所の賃借です。日本基準ではリース取引を、リスク・経済価値アプローチに基づき、ファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引に分類しております。当行グループの主なリース取引はオペレーティング・リース取引に分類されており、リース料を発生時に費用処理しております。一方、IFRSでは、原則としてリース開始日に使用权資産及びリース負債を連結財政状態計算書にそれぞれ「その他の資産」及び「その他の負債」として当初認識しております。当初認識後は、使用权資産は取得原価より減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した価額で事後測定し、リース負債は実効金利法による償却原価で事後測定しております。

なお、当行グループがリースの貸手となる取引はありません。

#### G. 社債

日本基準では社債発行費を支出時に全額費用処理しております。IFRSでは、社債は当初認識時に、引受手数料及び発行時割引額等の社債発行に直接帰属する取引費用を控除した公正価値により測定し、当初認識後は、実効金利法による償却原価により測定しております。また、IFRS第9号に従いヘッジ会計を適用している社債については、ヘッジされたリスクに起因する公正価値の変動を帳簿価額に調整しております。

#### H. 金融保証契約負債

金融保証契約は、日本基準では、保証債務残高を「支払承諾見返」及び「支払承諾」として資産及び負債に同額で計上しております。一方、IFRSでは、当初認識時に「金融保証契約負債」を金融保証契約資産と共に公正価値により測定されます。また、当初認識後においては、IFRS第9号に従って算出された損失引当金の金額と、当初認識額から、該当があれば、IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」に従って認識された累積償却額を控除した金額のいずれか高い金額により測定されます。

#### I. 退職給付に係る負債

日本基準では、確定給付制度より発生した数理計算上の差異を、発生年度に一括費用処理（純損益として認識）しております。一方、IFRSでは、確定給付制度の再測定額を発生年度に「その他の資本の構成要素」として認識し、直ちに利益剰余金に振替えております。また、退職給付債務についてIFRSに基づいた再測定を行っており、退職給付債務の期間配分方法等により生じた差異について、「営業費用」として認識しております。なお、退職給付に係る負債は、「その他の負債」に含めて表示しております。

## J. 連結決算日と子会社の決算日との差異

日本基準では、子会社の決算日と連結決算日との差異が3カ月を越えない場合、重要な連結会社間の取引のみを子会社の財務諸表に反映することが求められております。したがって、当行グループは日本基準における連結決算上、重要な連結会社間の取引のみについて調整を行っております。一方、IFRSでは実務上不可能な場合を除き、連結子会社の財務諸表は親会社の決算日で作成することが求められております。そのため、当行グループは決算日が連結決算日と異なる子会社について、連結決算日と子会社の決算日が一致する財務諸表を作成しております。